

## ヨーロッパ経済論 2

### 第7講 欧州統合の歴史的展開 I

#### 1. 欧州統合の背景

##### (1) ヨーロッパ統合の背景

ヨーロッパの多様性：民族・言語・文化・就航

ヨーロッパの共通性：印欧語族、ギリシャ・ローマ文化、キリスト教世界、中世

→統一の歴史・記憶と現実の分裂

例：東西教会分裂、宗教改革、三十年戦争・ウェストファリア条約

##### (2) 欧州統合前史

1871年 ドイツ統一

→大国の出現と勢力の不均衡

1914-1918年第一次世界大戦→ヨーロッパを二分する戦争

ベルサイユ条約

→ドイツへの過酷な条件（領土割譲、賠償金）

→ナチスの台頭

##### (3) 汎ヨーロッパ運動

リヒャルト・ニコラウス・栄次郎・クーデンホーフ=カレルギー

『パン・ヨーロッパ』（Paneuropa）1923年

国際汎ヨーロッパ連合（International Paneuropean Union）の結成

1929年 ブリアン首相（フランス）国際連盟総会で「欧州連邦秩序構想」

ナチスによる活動禁止

→クーデンホーフ・カレルギーアメリカに亡命→アメリカで運動継続

#### 2. 終戦後の動き

##### (1) 終戦後の統合運動

1946年 チャーチルの欧州合衆国演説

- ・アメリカをモデルに「合衆国」を形成
- ・キリスト教の信仰と倫理観を共有する「欧州家族」
- ・独仏和解

→欧州統一運動へ

他方「鉄のカーテン」

1948年 ハーグ会議

→翌年、欧州評議会（Council of Europe）創設へ

冷戦の本格化→東西ヨーロッパ分裂

### ・ OEEC の形成

1948 年 欧州経済協力機構 (Organization for European Economic Cooperation, OEEC) 設立  
 マーシャルプランの受け皿・共同復興計画の策定  
 後に OECD

## 3. ヨーロッパ統合へ向けて

### (1) 欧州石炭鉄鋼共同体の発足

戦後ヨーロッパ体制における問題

ドイツ問題→大国ドイツ復活への恐怖

ソ連問題→共産主義勢力の脅威

### モネ構想

独仏和解と経済復興の実現→ヨーロッパ連邦・単一経済単位の結成が必要  
 →第一歩として石炭・鉄鋼を国際共同管理する制度の発案  
 →シューマン外相が同意  
 →シューマン・プランとして提案 (1950 年)

シューマン・プラン

「平和関係の維持にとって、統一された力強いヨーロッパが文明に対してなす貢献が不可欠である。これまで 20 年以上にわたってフランスは「統合ヨーロッパ」という大義につながる重要な目的のために戦ってきた。だが、ヨーロッパは統合されず、われわれは戦争に向かった。…もし、ヨーロッパの諸国が団結すべきだとするならば、数世紀にわたるフランスとドイツの間の敵対関係がまず解消されなければならないまい。われわれの努力は手始めにこの両国をめぐる問題にかからねばならないのである。…フランス政府はここに、フランスとドイツの石炭および鉄鋼の生産に関するすべてを一つの共同最高機関の管理におくことを提案する」

(金丸輝男編『ヨーロッパ統合の政治史』有斐閣、2007、p.40f.)

## 欧州石炭鉄鋼共同体 (European Coal and Steel Community: ECSC) の設立

- ・ 超国家機関の設立
- ・ 諸国から独立した活動

1951 年フランス・ドイツ・イタリア・オランダ・ベルギー・ルクセンブルクにより

「パリ条約」調印

1952 年 ECSC 発足

- ・ 共同市場の形成
- ・ 域内自由貿易
- ・ 域内関税・規制・補助金・非関税障壁の撤廃
- ・ 量的制限の撤廃
- ・ 労働条件の改善など

**ECSC の組織**

- ・ 最高機関：超国家的性格、独仏 2 名、残り各国 1 名 + 1、多数決制
- ・ 共同総会：仏独伊 18 名、ベルギー・オランダ 10 名、ルクセンブルク 4 名、  
2/3 可決で最高機関解任
- ・ 閣僚特別理事会：各国関係代表者により構成・各国との調整機関
- ・ 司法裁判所：裁判官 7 人

**(2) 欧州防衛共同体構想の失敗**

1950 年 朝鮮戦争勃発

ヨーロッパの防衛体制整備の必要性

→ドイツ再軍備をどうするか

- ・ ナチスの記憶
- ・ 相応の防衛負担

→「プレヴァン・プラン」

欧州防衛共同体 (European Defence Community、EDC) の創設案

- ・ 超国家的軍隊
- ・ 加盟国の集団的安全保障体制
- ・ 各国独自軍の廃止
- ・ ECSC と同様の組織
- ・ ただし軍配備は北大西洋条約機構 (NATO) 司令官の配下

**構想の失敗**

1952 年 パリ条約調印

→フランス議会批准否決→構想の失敗

なぜ？

- ・ ド・ゴール主義に反する
- ・ NATO の存在
- ・ スターリンの死去・朝鮮戦争停戦による冷戦の緩和
- ・ イギリスの不参加
- ・ 西ドイツ再軍備に対する懸念

なお、結局西ドイツ軍は再軍備後 NATO 配下におくことになった

### (3) 欧州経済共同体・欧州原子力共同体の設立

ECSC 内での対立：独仏以外の加盟国の不安

→欧州共同市場形成への動き

1956 年「スパーク委員会報告」

共同市場の形成と原子力産業の共有の提言

1957 年 ローマ条約調印

枠組み条約：大枠の達成目標と達成時期のみ明記

**欧州経済共同体 (European Economic Community: EEC)**

- ・ 全経済領域をカバーする共同市場の形成
- ・ 委員会、理事会、議会、裁判所の設置
- ・ 諮問機関の設置：経済社会評議会等

**欧州原子力共同体 (European Atomic Energy Communities: Euratom)**

- ・ 石油から原子力へのエネルギー転換
- ・ 平和利用のための共同研究
- ・ 委員会、理事会、議会、裁判所の設置
- ・ 経済社会委員会の設置